

熱中症にご注意を！

近畿地方もようやく梅雨明け、本格的な夏を迎えると同時に、熱中症による事故が増加するシーズンとなりました。昨年度は近畿管内直轄工事において、熱中症による被害が11件発生し、うち1件は死亡事故となっています。今年度においては、7月末時点で4件の被害が発生していますが、そのうち、交通誘導員の熱中症被害が半数を占めている状況です。今後も気温の高い日が続くため、十分な注意が必要です。

■近畿管内直轄工事における熱中症の発生状況(2018～2019. 7時点)

| 発生日時 | 当日の気温 | 当日のWBGT値 | 被災者種別 | 当日の作業内容 他 |
|-----------------|-------|----------|-------------|---------------------|
| 2018.4.23 12:00 | 24.5℃ | 20.8℃ | 作業員 (62歳) | 裏込め砕石敷き均し作業 |
| 2018.5.25 10:45 | 24.0℃ | 22.0℃ | 交通誘導員 (77歳) | 路肩規制に伴う後方警備 |
| 2018.6.26 10:30 | 29.2℃ | 27.5℃ | 作業員 (42歳) | 足場材の運搬作業 |
| 2018.7.18 15:40 | 36.8℃ | 32.0℃ | 作業員 (22歳) | 鉄骨建方作業 |
| 2018.7.19 16:00 | 37.2℃ | 31.0℃ | 交通誘導員 (50歳) | 仮設看板設置時の交通誘導 |
| 2018.7.24 10:30 | 39.0℃ | 32.5℃ | 作業員 (22歳) | 現場内の測量作業 |
| 2018.7.24 7:40 | 36.4℃ | 29.6℃ | 交通誘導員 (56歳) | 横断歩道部の歩行者誘導【死亡事故案件】 |
| 2018.7.25 11:00 | 33.1℃ | 33.0℃ | 作業員 (30歳) | 現場内の測量作業 |
| 2018.7.25 15:00 | 36.1℃ | 30.4℃ | 巡視員 (37歳) | 河川巡視作業 |
| 2018.8.16 10:20 | 29.0℃ | 26.0℃ | 作業員 (39歳) | トンネルのロックボルト打設作業 |
| 2018.9.7 16:00 | 31.0℃ | 32.0℃ | 作業員 (44歳) | 橋梁上部用ベントの解体作業 |
| 2019.6.29 15:00 | 30.3℃ | 29.0℃ | 交通誘導員 (65歳) | 交通誘導作業 |
| 2019.7.17 11:30 | 31.6℃ | 29.3℃ | 作業員 (64歳) | 現場着材料の荷下ろし作業 |
| 2019.7.26 15:00 | 34.0℃ | 28.6℃ | 交通誘導員 (60歳) | 足場架設に伴う交通誘導 |
| 2019.7.31 13:15 | 33.0℃ | 29.0℃ | 作業員 (51歳) | 鉄筋工 |

熱中症は

気温の高くなる日中に限らず、**朝夕にも発生**。

建設現場では

幅広い年齢層で熱中症を発症。

今年度に入り

交通誘導員の熱中症が頻発しており、**作業内容や作業環境に応じた対策が重要**。



熱中症を防ぐには...



建設業は屋外作業が多く、ヘルメット等の安全対策装備により放熱しにくいいため、熱中症のリスクが高まりがちです。熱中症対策用品の着用や、休憩所への熱中症対策用品設置は、対策としては手っ取り早く、一定の効果はありますが、作業内容や作業環境によっては効果を発揮しない場合も考えられます。

現場管理担当者は、WBGT値等による作業環境のチェック及び**警戒値を超えた場合やそれに準ずる場合の対応（作業休止や休憩頻度等の見直し）を事前に決めておくことが必要**です！



熱中症予防サイト (環境省)

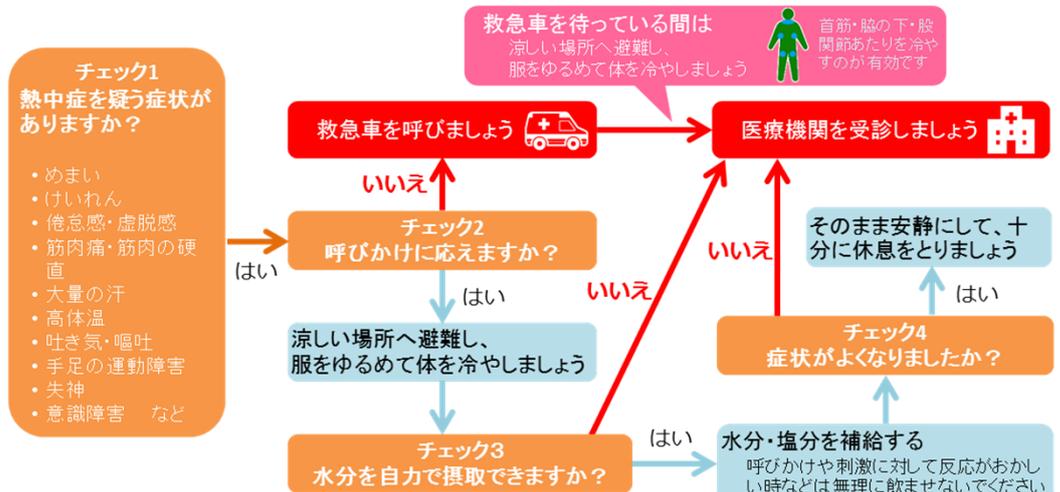
熱中症予防・対策に対する近年の直轄における取り組み

- 土木工事安全施工技術指針の改定 (H29～)
→熱中症対策として、「高温多湿な作業環境下での必要な措置」の項目を新設。
- 現場環境改善費への明記 (H29～)
→安全関係の計上項目として「熱中症予防」が含まれることを明記。
- 熱中症対策に係る現場管理費の補正 (H31～)
→屋外作業の工事を対象に工事期間中の真夏日数に応じて現場管理費を補正。

その他、建設現場における熱中症対策事例集やリーフレットを作成し、熱中症予防対策について呼び掛けています！

熱中症かな？と思ったら...

熱中症の疑いがあるときは、以下のように対処しましょう。



参考：熱中症予防情報サイト (環境省)

お盆時の注意点

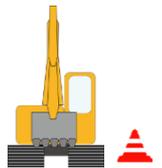
お盆は帰省シーズンであり、普段に比べて工事をしていることを知らない人が増えるだけでなく、帰省中の子供が誤って工事現場に入り込み、けがをする場合も十分に考えられます。容易に人が入り込めないよう、しっかりと対策を講じましょう。

- バリアード、看板等の安全設備の充実を図り、**立入禁止区域を明確にする。**
- 小さな子供にも分かりやすいよう、イラストやひらがなを使った進入禁止ステッカーを用いるなど、**見る側に立った工夫を行う。**
- 作業している現場であれば、警備員等を配置する。
- 歩道部に工事車両出入口を設置する場合には、交通誘導員等を配置する。
- お盆時期は夜間に出歩く機会も増える傾向にあるため、チューブライト等、**夜間対策も検討し、工事現場であることを明確にする。**



お盆時は工事現場自体の休止も考えられます。長期間休止する場合は、休止前に場内の点検を行い、資機材や危険なものを片付けましょう。飛びそうなものがあれば、括り付ける等の対策を行い、整理整頓を心掛け、事故が発生しないように十分に注意をお願いします。

これらに加えて、長期間現場を留守にすると盗難発生への恐れもありますので、出入口の施錠を確実にし、現場パトロールを実施する等、十分な注意をお願いします。また、緊急時の連絡先等に変更や誤りがないか、今一度確認するようにしましょう。



今年度も各地で安全協議会を開催しています

今年度も7月17日の安全講習会を皮切りに、各地で安全協議会を開催しています。8月は2件の開催が予定されており、今後も順次、開催の予定です。工事全般における『安全』について考える良い機会ですので、奮ってご参加ください。また、開催地域によっては、安全協議会にあわせて「工事円滑化に向けた取り組み」についても説明しています。昨今の情勢を踏まえ、工事の品質確保や受発注者間の負担軽減に向けたさまざまな取り組みを実施していますので、今後の参考としてください。



兵国・六甲・国営明石
合同工事安全協議会の様子

| 開催日時 | 大会名 | 開催場所 |
|-------------------|---|------------------------|
| 7/17(水) 13:30~ | 【開催済】4事務所合同全期労働安全講習会 | 中央流域センター (枚方出張所敷地内) |
| 7/24(水) 13:30~ | 【開催済】和歌山河川国道事務所工事安全協議会 | 和歌山河川国道事務所 |
| 7/25(木) 13:00~ | 【開催済】兵庫国道事務所・六甲砂防事務所・国営明石海峡公園事務所合同工事安全協議会 | 神戸市教育会館 大ホール |
| 7/26(金) 13:30~ | 【開催済】福知山河川国道事務所工事安全協議会 | 京都府立中丹勤労者福祉会館大会議室 |
| 8/8(木) 13:15~ | 3事務所合同「工事円滑化に向けた取り組みの説明会及び工事安全協議会」 | 奈良国道事務所 |
| 8/8(木) 14:00~ | 福井地区合同工事等安全協議会 | 福井県産業会館 |
| 9/5(木) 14:00~ | 滋賀県内3事務所合同安全衛生講習会 | 大津市勤労福祉センター 大ホール |
| 9/27(金) 14:00~ | 京都営繕事務所令和元年度工事安全協議会 | 京都教育文化センター |
| 9/27(金) 午後 | 浪速・大合同安全協議会 | 近畿地方整備局 第1別館304会議室 |

★令和元年度版安全啓発リーフレットを近畿地整HPにアップしました。現場の安全教育等にご活用ください★

【令和元年度安全啓発リーフレット】

<https://www.kkr.mlit.go.jp/plan/jigyousya/jikoboushi/ankenkeihatsu/ol9a8v000001n4so-att/ankenkeihatsu1.pdf>

【参考資料】

<https://www.kkr.mlit.go.jp/plan/jigyousya/jikoboushi/ankenkeihatsu/ol9a8v000001n4so-att/sankou1.pdf>

リーフレット掲載の事故事例（一例）

コンクリート打設作業中に重機が転倒して打設ホッパーに倒れ込まれ死亡(死亡事例) 国土交通省

① 日 時：平成30年7月9日(月) 場所：業務車庫(クレーン以外)・労働災害

② 作業内容：コンクリートホッパーによる打設作業【砂防洗路工事】

③ 事故内容：コンクリート打設中にクレーン仕様バックホウの足下路肩が脱落し、打設ホッパーと機體に作業員が倒れ込まれた。

④ 被害状況：作業員1名死亡

【事故発生状況】

●バックホウでコンクリートホッパーを吊り上げコンクリート打設していたところ、バックホウ足下の路肩本砂が脱落してバックホウが転倒し、コンクリートホッパーと機體に作業員が倒れ込まれた。

●作業計画書では、コンクリート打設はクレーンを使用する計画であった。

【事故発生原因】

●路肩本砂の基礎転倒防止措置が不十分であったため

●作業計画書と異なる作業内容のため、作業前後の路肩や基礎転倒防止措置などが不十分であったため